

メイド・バイ飛驒高山認証制度 第3回認証産品が決定

市では、日本遺産のストーリーをもとに「飛驒の匠のDNAを受け継ぐものづくりのまち」として飛驒高山のブランディングを高めることで、文化の継承・発展と経済の活性化を図るため、飛驒高山ブランドコンセプト（※）に基づき独自性と信頼性の高い地場産品を認証しています。

市内外の有識者で構成するメイド・バイ飛驒高山認証委員会による審査を経て、今年度は3産品を認証し、合計28産品となりました。

今号では、新たに認証した3産品を紹介します。ぜひ皆さんの暮らしの中にも、匠のDNAを引き継ぐメイド・バイ飛驒高山認証産品を取り入れてください。

※飛驒高山ブランドコンセプト

「飛驒高山の風土と飛驒人の暮らしが生み出す本物

それが飛驒高山ブランド」



〈認証ロゴ〉

認証産品には右記のロゴが表示されます

小屋名しょうけ
小屋名しょうけ保存会



久々野町小屋名地区に古くから小屋名しょうけと呼ばれるざるづくりの技術が伝えられており、越前の石徹白村（現在の郡上市白鳥町石徹白）から伝えられたとされています。小屋名しょうけは、野菜の水切りや米上げに使用する「ざる」で、古くから飛驒人に親しまれてきました。形は底と胴が一体となった浅い楕円形のもので、口のある「片口しょうけ」と口のない「丸しょうけ」に分けられ、「片口しょうけ」は洗った米や豆を鍋などに移しやすいようにと、明治20年ごろに小屋名の人々が考案したものと伝えられています。

平成8年には、地域として製作技術を後世に伝承していくため「小屋名しょうけ保存会」が設立されました。

極めて精巧で強靱、長持ちし、スズタケを縦横に丹念に編み込んで美しい網目を作り上げており、古くから多岐用途に利用され、愛されている伝統工芸品です。



Check!

過去の認証産品はこちら

これまでの認証産品は右のQRコードからご覧いただけます。



市長コラム「道しるべ」

飛驒の匠のDNAとメイド・バイ飛驒高山認証制度



地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として国が認定しています。高山市は「^{匠のたくみ}飛驒匠の技・こころ = 木とともに、今に引き継ぐ1300年 =」として、平成28年に認定されました。「飛驒工制度」は奈良時代に木匠技術者を都へ送ることで税に充てる全国唯一の制度で、飛驒の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ高山の文化の基礎となっています。そして「飛驒の匠」は、今も高山の人々の誇りとなっています。誇りと自信をもって匠の文化を世界に発信してまいります。